

令和2年度 第1回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時: 令和2年7月6日(月) 15時~16時30分

開催場所: 我孫子市教育委員会 大会議室

出席者: 我孫子市教育委員会教育長 倉部 俊治

我孫子市教育委員会教育総務部長 丸 智彦

我孫子市小中一貫教育推進委員8名(2名欠席)

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局4名

1 委嘱式

新規委嘱者 第3号委員 湖北中学校PTA会長 竹内 達夫

第3号委員 新木小学校PTA会長 久野 晋作

第4号委員 白山中学校長 佐藤 知代

第4号委員 我孫子第二小学校長 吉川 廣一

第5号委員 根戸小学校教頭 北見 貴弘

第6号委員 布佐小学校教諭 山田 恭生

2 倉部 俊治 教育長 挨拶

我孫子市の小中一貫教育は、平成26年から取り組まれてきて、市内の学校に定着してきたと感じている。引き続き推進していくためには、保護者にも小中一貫の内容が伝わるようにしていくとともに、地域とのつながりを作っていくことが必要である。今後は、コミュニティ・スクールをイメージした学校づくりが課題である。

また、我孫子市では文部科学省の GIGA スクール構想を受け、1人1台の端末整備が決まった。新たな学校の環境整備に取り組み、よりよい教育に向けて、我孫子市の小中一貫教育を進めていきたい。

3 委員長 選出

委員長: 内海崎教授 副委員長: 山田教諭

4 自己紹介

5 議事

【質疑応答】

(1)今年度の我孫子市小中一貫教育について(P3)

- ・今年度の小中一貫教育については、新型コロナウイルス感染症等の影響を踏まえ実施する。
- ・小中一貫教育にかかる交流活動については、資料のとおりとする。
- ・市の小中一貫教育に係る全体スケジュールについては、令和2年2月に改訂した我孫子

市小中一貫教育基本方針のもと、中学校区ごとのグランドデザイン及び Abi☆小中一貫カリキュラムの見直しを進める。進行予定については、今年度内の作業完了を予定していた当初計画を変更し、余裕を持って取り組めるようにした。状況を見つつ、今後計画を詰めていく。

<各中学校区小中一貫教育グランドデザインについて>

- ・各中学校区小中一貫教育グランドデザインについては、改訂された「小中一貫教育基本方針」を反映するため、グランドデザインに必ず組み込んでいただく内容を示した。学校には、4月24日の校長会資料にてお知らせしている。内容項目及びデザイン例は資料のとおり。

Q. 小中一貫教育推進協議会の組織はどのようなイメージになるのか。

A. 小中一貫の資料の中にあるモデル図がイメージである。

Q. 各中学校区ですでに取り組んでいるものを活かしてよいのか。

A. モデルであるので、従来のものを活かしてよい。

(2)「Abi☆小中一貫カリキュラム」改訂について(P6)

- ・令和2年2月に改訂した我孫子市小中一貫教育基本方針のもと、「Abi☆小中一貫カリキュラム」の改訂作業を進めていく。今後の作業については、これからの状況を踏まえて、指導課事務局を中心に、計画を立てていく。
- ・改訂作業を進める上では、昨年度の第3回小中一貫教育推進委員会でご意見をいただいた次の2点を踏まえて取り組んでいく予定である。
- ・一つ目は、カリキュラムの見える化について。4つをねらいとし、カリキュラムのグランドデザインを作成できればと考えている。
- ・二つ目は、今後のカリキュラム改訂作業について。先のねらいを踏まえつつ、基本方針とAbi☆小中一貫カリキュラムの整合性を図るため、各分野について、統一項目の設定や、デザインの統一を手立てとしていきたいと考えている。
- ・この具体的な内容としては、7、8ページに例として掲載している。ちなみに今回は「Abi-ふるさと」を例としてまとめている。

(P7、8統一項目について)

- ・今回統一項目としたいと考えているのは、「目指す子ども像」「学習への取組」(基本方針の各分野について示しているもの)「目指す子ども像を育成するための重点と構成要素」「市共通教材」(分野によっては様式等資料)「市共通学習」。そして、裏面の「学びの系統表」。しかし、実際に各分野の作業を進める上で不都合が出てくる場合には、その都度柔軟に対応していきたいと考えている。

【 協議 】

○新学指導要領では、道徳は「特別の教科」、外国語も小学校高学年で「教科」、プログラミ

ング教育も「必修」となり、我孫子市の独自性を出していくことは難しい。我孫子らしさを出せるのは「ふるさと」と「キャリア」であるため、この二つが柱になった。

- 小中一貫カリキュラムは、目指す子ども像を掲げ、見通しをもったカリキュラムであるが、学校現場で子ども達の前に立つと、教師はそれぞれを点として捉え、授業を行っている現状があり、全体像のどこに位置付けられているのかが分からなくなってしまう。
- 子ども達を育てるためのどの位置づけにあるのか教員に周知できるように、グランドデザインで分かりやすくカリキュラムを示すことが大切ではないか。
- 子どもを育てるためのはずであるが、授業をやるのが目的になってしまい、やっていることが点になってしまいがちである。子ども達の具体的な姿が見えていない。
- 見える化するためにチャート図で示すのはどうか。道徳でもチャート図を作成し、チェックすることで全体像のどこに位置付けられているのか確認しながら、先を見通して取り組んでいる事例がある。教員が、どの位置づけのことをやっているのかわかるようにし、目指す子ども像に向けた道筋を作れるとよい。
- 算数は系統性がしっかり示されて取り組んでいるが、それと同じイメージと捉えればよいだろうか。

(3) 小中一貫教育をより充実させるための地域連携について(P9)

- ・本市の小中一貫教育で、どんな子どもを育てるのか、というのは12ページにある「目指す子ども像」のとおりである。こうした力をつけたこの先には、我孫子市民として地域に生きる、また、我孫子市を愛し、ふるさとに貢献する、子ども達が大人になった姿がある。
- ・そのためには、地域が、地域の一員として子ども達を育てること、また子ども達が地域の一員として、地域参加、地域貢献をしていくことが大切である。
- ・これを具体化していくための手立てとして、現在我孫子市で導入を検討している「学校運営協議会制度」を活用し、地域との連携を図っていきたいと考えているところである。なお、この「学校運営協議会制度」については、11ページにまとめてある。
- ・地域連携については、地域と学校の双方向から考えていきたいと思う。
- ・1つ目は、学校支援という観点である。これまでも、小中一貫教育においては、地域の学びの資源や地域人材の活用について求めてきたが、さらに地域・保護者の方が地域の子どもの育てる一員として当事者意識を持ってもらうことが必要だと考える。
- ・2つ目は、地域での教育という観点である。子ども達が学校で学んだことを地域で生かし、また地域で学んだことを学校で生かす、その往還をとおして子ども達が地域の一員としての当事者意識を持てるようにすることが必要だと考える。
- ・このことを踏まえつつ、10ページには、これまでの取組などを参考に、具体的な例として示した。このことについて、ほかにどんな連携の在り方が考えられるか、またこれまでに効果的だった連携の内容や、難しさを感じる点などについてもご意見をいただきたい。

【 協議 】

- ふるさととして我孫子の何を良さとして伝えればいいのか。昔は今よりも自然が多か

ったし、時代とともに変化していく。また、住んでいる地域として捉えるのか、我孫子市全体として捉えるのか。何を自慢として捉えればよいか伝えられていないのではないか。

- 抽象化しがちなことを具体化することが大切である。
- 我孫子市民の歌が駅の発着チャイムに採用されたが、意外と知られていない。また、市民憲章など我孫子市の良いものが浸透できていないと感じる。
- 地域行事に垣根なく参加して欲しい。年配の方は、地域の良さを若い世代へつなぎたいと感じている。地域の顔が見えづらいので、挨拶が盛んになるとよい。
- 布佐の地域の方々は、布佐という地域が好きであることが伝わってくる。地域の先生として授業に関わってくれたり、自主的な見守り活動もしてくれたりしている。しかし、日々の活動が小中一貫という認識になっていない。もっと中学校への接続や小中一貫の観点で地域や保護者に周知することが大切である。
- 地域連携の在り方は、中学校区ごとでよいのか。それぞれの中学校区の特色を生かした具体化が必要であると感じる。
- 学校と地域の連携の流れに課題を感じている。学校職員の声を吸い上げてから、コーディネーターにつなげ、依頼していくという流れでは時間がかかってしまう。双方向でやり取りができる方法を模索中である。いち早く現場の声を情報として出したいが、学校の安全面も考慮しなくてはならない。
- デイケアの利用者と子ども達の交流を行っているが、子ども達との関りの求め方が人それぞれであるところが難しい。子ども達が戸惑う場面も見られる。
- 教員が我孫子市の動静を知らないために、ふるさと学習に使える資料がたくさんあるにも関わらず、学習に結びつけることができていないのがもったいない。
- 小学校では、1人の教員が複数教科を指導しているため、一つの教科にかけられる教材研究の時間が限られているということも課題である。小中一貫によって、専科教員である中学校の先生の協力を得ることが先生方の視野を広げる糸口になりそうである。
- 高校では、認知症サポーターの講座に地域の方が協力してくれているのでありがたい。地域とのつながりは必要な事である。
- 学校だよりも学校長のコメントの欄があったり、防災キャンプによって地域の方々につながる機会があったりするなど、それぞれの地域のやり方がある。防災キャンプでは、生徒の意外な一面を見ることもできた。これを活用するとよいと思う。

【確認事項】

- この場で委員の皆様からご意見をいただいたことや、今後各中学校区において具体化を図るために、現在導入を予定している『学校運営協議会制度』を活用し、地域との連携、協働を深めていきたいと考えている。
- 次回、第2回小中一貫教育推進委員会は2月15日、15時より、教育委員会の大会議室で開催。

以上